

## ICTで広がる可能性

ICTは誰にとっても便利ですが、特に障害のある人の生活や社会参加を支える大きな可能性があります。障害特性やニーズに合わせて活用することで、多様な状況に対応し、生活の質を大きく高められます。

### コミュニケーションの向上

- 音声認識や文字変換ツールにより、「伝えたいこと」を言葉にできます

### 情報アクセスの保障

- 自分に合った方法で、必要な情報にアクセスできます

### 教育と学習の支援

- eラーニングやデジタル教科書、ディジタル図書などを使うことで、障害の状況に合わせて学べます

### 就労機会の拡大

- リモートワークで、自分に合った環境で働くチャンスが広がります

### 生活の自立支援

- スマートホーム技術が、毎日の暮らしをやさしくサポートしてくれます

### 社会参加の促進

- オンラインコミュニティで、人と繋がる機会がもっと増えます

## ◆検索先◆

### ICTサポートセンターは全国に設置されています。

各センターの所在地や連絡先は、厚生労働省のホームページで確認できますので、ぜひご覧ください。

#### ◆厚生労働省HP：

<https://www.mhlw.go.jp/ictsupportcenter/>

#### 《ご利用の注意点》

障害者ICTサポートセンターは、「地域生活支援事業」の一環として、都道府県・指定都市・中核市が設置・運営しています。  
そのため、センターの設置の有無や具体的なサービス内容は自治体ごとに異なります。



#### ◆厚生労働省HP

障害のある方のご家族・支援者の方へ

# 障害者ICTサポートセンター を利用してみませんか？



## ICTサポートセンターとは？

障害のある方のICT機器の利用機会の拡大や活用能力の向上を目的とした**地域のICT相談窓口**です。

ICTサポートセンターは、障害のある方やその支援者などからの相談受付、機器の体験・貸出、障害分野におけるICTに関する情報提供やサポートを行います。

## こんな方におススメ！

### 障害のある方のご家族・支援者

ICT機器のことを  
もっと知りたい！



ICT機器を  
もっと便利に使いたい！



ICT利用支援に  
ついて学びたい！



- 実際にICT機器を試してから購入を検討したい
- 意思伝達が難しい方に向けてのICTの使い方を相談したい

- 障害の特性にあったスマートフォンやパソコンの使い方を知りたい
- ICTを使った新しい支援方法を学びたい

# ICTサポートセンターできること

ICTサポートセンターでは、障害のある人や支援者の皆様を対象に、ICTに関する様々なサポートを提供しています。お住まいの地域のセンターをお調べいただき、積極的にご活用ください。

## ICT機器等の相談対応

- ICTサポートセンターでは、ご家族や支援者からの相談も受け付けています

## ICT機器等の利用支援

- スマートフォンの機能から意思伝達装置まで、幅広くICTの活用をサポートします

## ICT機器等の研修

- センターではパソコンやスマートフォンの教室を開催しています

## ICT機器の展示・体験

- ICT機器や福祉用具を実際に見て、体験し、借りられる場合もあります

## WEBによる情報提供

- 支援者の皆様にも役立つICTツールやサービスについて、HP等で情報発信しています

## ボランティア等の育成

- ICT支援ボランティアの参加や、地域支援者の育成研修にもご参加いただけます

※センターでは、職員が少数で対応している場合もあるため、迅速な対応が難しいこともあります。  
※相談者のご自宅などに訪問して、直接お話を伺う場合もあります。  
※各自治体によって、センターで提供するサービスは異なります。



障害のある方のご家族・支援者からつながった

# ICTサポートセンターの活用事例

## 仕事に役立つスキルをサポート



- 障害種別：盲ろう（弱視）
- 相談者：支援者
- 内容：仕事で使うため、パワーポイントの使い方を教えて欲しい
- 支援期間：5か月

Aさんは、仕事で活用するために「パワーポイントを使えるようになりたい」と希望し、盲ろう者支援センターを通じてセンターに相談。Aさんに合わせた支援を行い、スムーズにソフトを使って作業ができるようになりました。

## タブレットで安心して学べるように

- 障害種別：発達障害（ASD／ADHD）
- 相談者：家族（学校を通じて相談）
- 内容：こどもが宿題に時間がかかる
- 支援期間：2年

読み書きに困難のあったBさんは、ご家族が学校を通じてセンターに相談。センターでは、学校で役立つツールや機器と一緒に試し、学習の負担を減らす工夫を進めました。

その結果、カラー眼鏡やタブレットの活用により宿題にかかる時間が短縮され、安心して学習に取り組めるようになりました。



- 障害種別：肢体不自由（難病：ALS）
- 相談者：家族（保健所を通じて相談）
- 相談内容：意思伝達装置について教えてほしい
- 支援期間：半年

## ICTで「やりたい！」が叶った瞬間



Cさんのご家族は「視線入力やタブレットで生活が便利になるのでは」と期待していました。そこでCさんはセンターの支援で視線入力を体験し、大好きな音楽を楽しみ、「ICTで余暇も広がる！」と実感。さらにメーカーと連携して意思伝達装置の操作を学び、自ら和歌を入力することにも成功し、大きな喜びを得られました。